

土木工学・建築学委員会
インフラレジリエンス分科会（第 26 期・第 2 回）

議事要旨

日 時：令和 6 年 4 月 15 日（金）13:00～14:30

会 場：オンライン会議（ZOOM）

出席者：〔委員〕多々納、小林、高橋、土屋、那須、藤原、松田（以上敬称略）

〔事務局〕藤田（同）

欠席者：〔委員〕岡村、勝見、中村（同）

議題等

（１）第 1 回分科会の議事録の確認

第 1 回分科会の議事録を確認し、資料 2-1 の通り、承認された。

（２）国土強靱化関連の話題提供

資料 2-2 に基づき、小林委員より国土強靱化に関する話題提供があり、これをふまえて意見交換をおこなった。

＜話題提供概略＞

- ・制度としての“国土強靱化”。

能登半島地震は想定内？想定外？

- ・省庁間を超える“横串”として何が必要かを明示すること

脆弱性評価・・・各省庁の担当から見ると、モニタリングに課題があり、精粗があるように見える。それをどうコーディネーションするか、また、省庁間のアンバランスがあるところをどのようにバランスさせるか、といった議論をどこかが行う必要があり、学の役割と考えられ、学会会議にも期待している。

＜意見交換の概略＞

- ・道路の役割の再考から議論を始めてはどうか。人や物資の移動のみならず、電気や水道が下を通り、道路の空間を利用している。横串として戦略を考えることの例として分かりやすいのではないか。
- ・緊急輸送道路指定と耐震安全性の観点での関係性（あいまいな現状）。
- ・横串と同時に、縦の重ね合わせとしてレイヤーの関係も議論する。
- ・災害時のリアルタイムのデータ収集に関して、個人情報というバリアが情報収集上の課題である。個人情報保護を前提として、緊急時のデータ収集の方法論を考える必要がある。
- ・情報提供業務などは予算の裏付けがないとなかなか動き出せない。機動的な予算が求められる。

＜今後に向けて＞

- ・能登半島地震をケースとして検討を深める

- ・国土強靱化計画そのものの中身を見ていく

(3) その他

特になし。

配布資料

資料 2-0. 分科会（第 26 期・第 2 回）議事次第

資料 2-1. 分科会（第 26 期・第 1 回）議事録

資料 2-2. 国土強靱化の理念と展望

次回の予定

5 月 27 日(月)10:00～12:00 に、合同分科会として開催。

以上

文責：土屋